

## 「解答例」・「出題の意図」

選抜区分	2023年度（選抜区分：学校推薦型選抜） 経済学部（科目名：小論文）																																																																																																																																																																																																																																																									
<p>推薦入試小論文では、友原章典著『移民の経済学—雇用、経済成長から治安まで、日本は変わるか』から一部を抜粋して課題文としました。この課題文は、既存の研究結果を紹介しながら、単純労働者である移民が増えると女性の社会進出にどのような影響を与えるのか、また女性の社会進出が労働市場にどのような影響を与えるのかについて論じている箇所です。読解するためには数量的な分析結果からの考察を論理的に解釈する必要があります。</p> <p>設問1および設問2は、課題文の内容を十分に理解したうえで、制限された字数内で簡潔に要約する力を試す設問です。課題文の中で展開されている論理を理解することが求められます。設問3は、課題文の内容を踏まえたうえで、自身の考えを文章で論理的に表現する力を試す設問です。</p>																																																																																																																																																																																																																																																										
設問1の解答例																																																																																																																																																																																																																																																										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>単</td><td>純</td><td>労</td><td>働</td><td>者</td><td>で</td><td>あ</td><td>る</td><td>移</td><td>民</td><td>が</td><td>増</td><td>え</td><td>る</td><td>と</td><td>、</td><td>労</td><td>働</td><td>時</td><td>間</td><td>が</td><td>増</td><td>え</td><td>る</td> </tr> <tr> <td>女</td><td>性</td><td>は</td><td>以</td><td>下</td><td>の</td><td>特</td><td>徴</td><td>を</td><td>持</td><td>つ</td><td>。</td><td>第</td><td>1</td><td>に</td><td>、</td><td>賃</td><td>金</td><td>の</td><td>高</td><td>い</td><td>女</td><td>性</td><td>で</td><td>あ</td> </tr> <tr> <td>る</td><td>。</td><td>女</td><td>性</td><td>の</td><td>時</td><td>給</td><td>分</td><td>布</td><td>の</td><td>中</td><td>央</td><td>値</td><td>よ</td><td>り</td><td>も</td><td>時</td><td>給</td><td>の</td><td>高</td><td>い</td><td>女</td><td>性</td><td>で</td><td>、</td> </tr> <tr> <td>時</td><td>給</td><td>が</td><td>高</td><td>い</td><td>ほ</td><td>ど</td><td>労</td><td>働</td><td>時</td><td>間</td><td>が</td><td>増</td><td>え</td><td>る</td><td>。</td><td>特</td><td>に</td><td>、</td><td>女</td><td>性</td><td>の</td><td>時</td><td>給</td><td>分</td> </tr> <tr> <td>布</td><td>の</td><td>上</td><td>位</td><td>25%</td><td>の</td><td>人</td><td>は</td><td>、</td><td>職</td><td>場</td><td>で</td><td>働</td><td>く</td><td>時</td><td>間</td><td>が</td><td>週</td><td>当</td><td>た</td><td>り</td><td>20分</td><td>増</td><td>え</td><td>る</td> </tr> <tr> <td>え</td><td>る</td><td>。</td><td>第</td><td>2</td><td>に</td><td>、</td><td>潜</td><td>在</td><td>的</td><td>に</td><td>長</td><td>時</td><td>間</td><td>労</td><td>働</td><td>が</td><td>一</td><td>般</td><td>的</td><td>で</td><td>あ</td><td>る</td><td>職</td><td>業</td> </tr> <tr> <td>に</td><td>就</td><td>く</td><td>女</td><td>性</td><td>で</td><td>あ</td><td>る</td><td>。</td><td>男</td><td>性</td><td>が</td><td>長</td><td>時</td><td>間</td><td>労</td><td>働</td><td>を</td><td>し</td><td>て</td><td>い</td><td>る</td><td>割</td><td>合</td><td>が</td> </tr> <tr> <td>高</td><td>い</td><td>職</td><td>業</td><td>で</td><td>働</td><td>く</td><td>女</td><td>性</td><td>は</td><td>、</td><td>長</td><td>時</td><td>間</td><td>働</td><td>く</td><td>確</td><td>率</td><td>が</td><td>増</td><td>え</td><td>る</td><td>。</td><td>第</td><td>3</td> </tr> <tr> <td>に</td><td>、</td><td>教</td><td>育</td><td>水</td><td>準</td><td>の</td><td>高</td><td>い</td><td>女</td><td>性</td><td>で</td><td>あ</td><td>る</td><td>。</td><td>特</td><td>に</td><td>博</td><td>士</td><td>号</td><td>や</td><td>専</td><td>門</td><td>職</td><td>学</td> </tr> <tr> <td>位</td><td>を</td><td>持</td><td>つ</td><td>女</td><td>性</td><td>の</td><td>労</td><td>働</td><td>時</td><td>間</td><td>が</td><td>大</td><td>き</td><td>く</td><td>増</td><td>え</td><td>る</td><td>。</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>		単	純	労	働	者	で	あ	る	移	民	が	増	え	る	と	、	労	働	時	間	が	増	え	る	女	性	は	以	下	の	特	徴	を	持	つ	。	第	1	に	、	賃	金	の	高	い	女	性	で	あ	る	。	女	性	の	時	給	分	布	の	中	央	値	よ	り	も	時	給	の	高	い	女	性	で	、	時	給	が	高	い	ほ	ど	労	働	時	間	が	増	え	る	。	特	に	、	女	性	の	時	給	分	布	の	上	位	25%	の	人	は	、	職	場	で	働	く	時	間	が	週	当	た	り	20分	増	え	る	え	る	。	第	2	に	、	潜	在	的	に	長	時	間	労	働	が	一	般	的	で	あ	る	職	業	に	就	く	女	性	で	あ	る	。	男	性	が	長	時	間	労	働	を	し	て	い	る	割	合	が	高	い	職	業	で	働	く	女	性	は	、	長	時	間	働	く	確	率	が	増	え	る	。	第	3	に	、	教	育	水	準	の	高	い	女	性	で	あ	る	。	特	に	博	士	号	や	専	門	職	学	位	を	持	つ	女	性	の	労	働	時	間	が	大	き	く	増	え	る	。						
単	純	労	働	者	で	あ	る	移	民	が	増	え	る	と	、	労	働	時	間	が	増	え	る																																																																																																																																																																																																																																			
女	性	は	以	下	の	特	徴	を	持	つ	。	第	1	に	、	賃	金	の	高	い	女	性	で	あ																																																																																																																																																																																																																																		
る	。	女	性	の	時	給	分	布	の	中	央	値	よ	り	も	時	給	の	高	い	女	性	で	、																																																																																																																																																																																																																																		
時	給	が	高	い	ほ	ど	労	働	時	間	が	増	え	る	。	特	に	、	女	性	の	時	給	分																																																																																																																																																																																																																																		
布	の	上	位	25%	の	人	は	、	職	場	で	働	く	時	間	が	週	当	た	り	20分	増	え	る																																																																																																																																																																																																																																		
え	る	。	第	2	に	、	潜	在	的	に	長	時	間	労	働	が	一	般	的	で	あ	る	職	業																																																																																																																																																																																																																																		
に	就	く	女	性	で	あ	る	。	男	性	が	長	時	間	労	働	を	し	て	い	る	割	合	が																																																																																																																																																																																																																																		
高	い	職	業	で	働	く	女	性	は	、	長	時	間	働	く	確	率	が	増	え	る	。	第	3																																																																																																																																																																																																																																		
に	、	教	育	水	準	の	高	い	女	性	で	あ	る	。	特	に	博	士	号	や	専	門	職	学																																																																																																																																																																																																																																		
位	を	持	つ	女	性	の	労	働	時	間	が	大	き	く	増	え	る	。																																																																																																																																																																																																																																								
<p>この設問に対して適切に解答するためには、本文中で説明される、単純労働者である移民が増えることによって労働時間が増える女性の3つの特徴、すなわち、女性の賃金が高い、長時間労働が一般的である職業に就いている、教育水準が高い、をおさえなければなりません。またそれぞれの特徴に対応した具体的な説明も必要です。</p>																																																																																																																																																																																																																																																										

設問2の解答例

第二次世界大戦を契機に働き出した女性が男性労働者にとって代わり、男性の賃金を全体的に低下させた。このとき大卒男性よりも高卒男性の方がより大きく賃金が低下したため、大卒男性と高卒男性の間で所得格差が拡大した。これは戦争を契機に働き出した女性が、大卒男性よりも高卒男性と競合していたためである。

この設問に対して適切に解答するためには、戦争を契機に働き出した女性が高卒男性よりも大卒男性と競合していたこと、これによって大卒男性よりも高卒男性の賃金が低下したことをおさねなければなりません。

設問3の解答例

日本において、単純労働者である移民の受け入れの影響が米国と同様であれば、本文にある「一部の女性」の労働時間を増やすだろう。日本では政治家や管理職といったリーダーの役割を担う女性の割合が低いことが課題となっている。「一部の女性」が働きやすくなることで、リーダーの役割を担う女性が増える可能性がある。またリーダーの役割を担う女性が増えることで、様々な分野で女性が働きやすい制度や職場環境の整備が進み、結果として男女平等な社会をより築きやすくなると期待できる。これらは望ましい点と考える。

一方で、単純労働者である移民と競合しやすい職業では、労働供給の増加によって平均給与が低下する可能性がある。また女性の社会進出に対する影響も「一部の女性」を除くと限定的であることから、少なくとも短期的には所得格差や女性間の社会進出格差が拡大する可能性がある。これらは望ましくないと考える。

この設問に対して適切に解答するためには、まず課題文で挙げられた数量的な分析結果や自身の知識をもとに、単純労働者である移民受け入れがどのような影響をもたらすかを検討したうえ

で説明しなければなりません。そのうえで、その影響がどのような観点から望ましいのか、あるいは望ましくないのかを説明しなければなりません。例えば解答例では、本文のコルテスとテサーダの研究結果から、単純労働者である移民の受け入れは「一部の女性」が働きやすくなることで、リーダーの役割を担うのにつながるのではないかと推論しています。またそのことは男女平等な社会を築くという観点から、望ましいと論じています。解答例では、続いて、所得格差や女性間の社会進出格差を拡大する可能性があることから、望ましくないとも論じています。

課題文で挙げられた分析結果や自身の知識をどのように組み合わせるかによって、移民受け入れがどのような影響をもたらすかについての多様な推論が可能です。また、その影響は多様な観点から評価できます。唯一の解答はなく、課題文と整合的な範囲で多様な解答が許容されます。設問に対して適切に論じていること、自身の考え方を適切に表現していることが大切です。